

清水特別支援学校 『お茶プロジェクト』

『お茶プロジェクト』とは？



『お茶プロジェクト』とは、本校で 2011 年度よりスタートし、地域のお茶屋さん、茶農家さんと茶葉の育成や収穫、様々な学習や地域活動を協働で行い、和紅茶を製品化する取り組みを通じて、お茶に親しみ、地域とかわりながら社会参加する姿を育てていくために 10 年以上継続している活動です。本プロジェクトは、様々な教育活動を通じて取り組んでいます。

今年度も茶農家さんの茶畑をお借りして、地域とつながりながら PTA 役員や保護者と協働で、清水特別支援学校の紅茶、『おいしすぎてえらいこっちゃ(紅茶)』を作っています。

【お茶プロジェクトの目的】

- ・地域やお店の人たちと交流することで、本校のことや取り組みを知ってもらったり、児童生徒の社会参加を促したりする。
- ・地元の基幹農作物であるお茶の栽培・加工にかかわることで、お茶の魅力や生産について学ぶ。

～プロジェクトメンバー～

「ともにあゆみ ともにかがやく」

～地域の中でかがやく人を目指して～

学校



教職員

お茶にかかわる学習を計画、立案し授業の中で取り組んでいます。
PTA の方々と一緒に、肥料まきやお茶摘み、パッキングなど、お茶の製品化に取り組んでいます。

保護者



PTA(保護者)

毎年役員の方々が、茶畑の肥料まき、お茶摘みなどに参画して、一緒にお茶を育てています。
お茶の入れ方学習会、交流会など地域との交流活動にもかかわっています。

子ども



児童生徒

授業ではお茶に関する様々な学習に取り組んでいます。
お茶摘み、パッケージデザイン、製茶した紅茶のパッキングなどに携わっています。

協働

子どもを中心に学校・保護者・地域が協働しながら「地域に遊び、学び、参加する」姿を目指しています

お茶屋・茶農家



中村米作商店 (お茶屋・中村さん)

創業 130 年。地域への恩返しとしてプロジェクトに参画してくれています。

豊好園 (茶農家・片平さん)

良質なお茶の生産地である両河内の茶農家さん。中村さんの想いに賛同し、茶畑を提供してくれています。
校内のお茶の苗木もお世話になっています。



～清水特支の紅茶ができるまで～



摘んだお茶の葉は紅茶にします。手摘みの紅茶は貴重で、毎年良質な紅茶が出来上がっています。

3月第1回
肥料まき



7月第2回
肥料まき



10月
お茶摘み体験



収穫後すぐ
製茶(紅茶)



パッケージ
デザイン募集



袋詰め



完成



完成した紅茶は、来校されたお客様にお配りしていて、毎年大変喜ばれています。

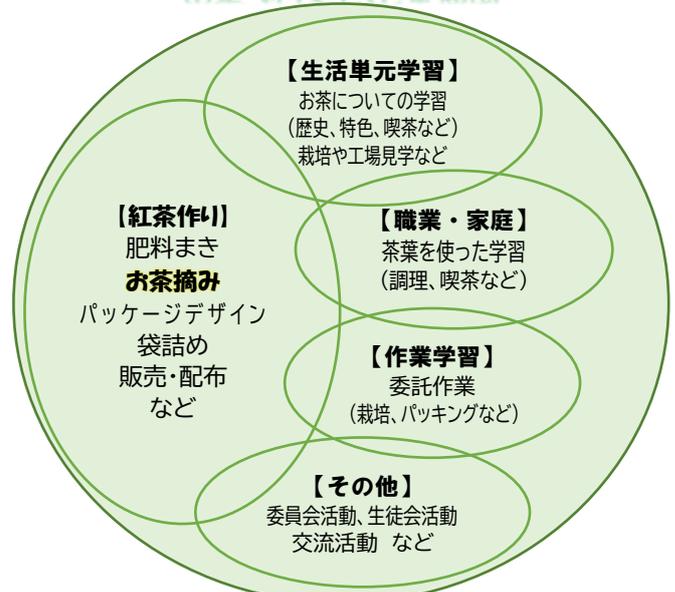
～お茶プロジェクトの現在～

プロジェクトが始まった当初は、高等部の生徒が作業学習の中でお茶摘みをしたり、地域の方とお茶を通じた交流会やお茶を製品化して販売をしたりするなど、様々な教育活動で取り組んでいました。

しかし、コロナ禍で喫茶を通じたお茶の学習や交流、児童生徒のお茶摘みが難しくなり、保護者と教員が代表でお茶摘みをしながら事業をつないできました。コロナ禍での制限が少なくなってきた令和3年度から生徒でのお茶摘みが復活し、今年度は休日に親子で共同でのお茶摘みをもう一度復活して取り組むことになりました。

今後も PTA や地域の方と協働しながら、清水の名産であるお茶にかかわる様々な教育活動を通して、地域の中でかがやきながら生活する人を育てていけるように取り組んでいきたいです。

お茶プロジェクト全体図



「地域で遊び、学び、参加する」姿を目指して

～お茶摘みの様子～

10月19日(日)、児童生徒、保護者、教員が両河内にある豊好園さんの茶畑に行ってお茶摘みをしてきました。始めにお茶の摘み方、「一芯二葉」を教わってからお茶摘みスタート。「目標14kg!」を目指して一心不乱に茶摘みに取り組み、親子で会話を楽しんだり、「採れたよ!」と子どもが笑顔でかごを見せてくれたりと、楽しそうに参加をしている様子がうかがえました。摘んだ茶の葉の総重量は8.1kgでした。



今回摘んだ茶葉は茶農家さんが製茶してくれて、1.7キロの紅茶になりました。今後、学校内でパッケージデザイン、パッキングを経て、令和8年度の来校して下さった方々へプレゼントとしてお渡しする予定です。